

V 野 菜

1. たまねぎ

- (1) トヨヒラ (系統名 月交18号) 1997年
 登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第7号
 (農水省) たまねぎ農林交6号
 (種苗法) 第8842号

セールスポイント

秋期から春期にわたり長期間出荷可能なサラダ用及び半調理(加熱時間の短い調理)用の辛みの少ない良食味品種である。

来歴 本品種は、秋播き品種に近い球品質を備え、かつ従来の春播き品種と同等の高い貯蔵性を有する品種の育成を目標に、農林水産省北海道農業試験場において、米国より導入した細胞質雄性不稔系統「2935A」を種子親とし、新潟県園芸試験場育成の「CS-12」を花粉親として育成された単交配一代雑種である。1993年から「月交18号」の系統名で各種試験を行い、1997年に優良品種となった。

特性概要

1. 草姿は「ツキヒカリ」に近似するが、草丈は「ツキヒカリ」より長い。葉折れは「ツキヒカリ」と同程度であるが、葉先枯れは「ツキヒカリ」よりやや少ない。葉色は「ツキヒカリ」よりやや薄い。
2. 苗床内並びに定植後の生育は旺盛で、「ツキヒカリ」及び「北もみじ86」よりも優る。肥大期は「ツキヒカリ」とほぼ同時期かやや早い。倒伏期は「ツキヒカリ」

とほぼ同時期であるが、枯葉期はやや早い。抽台率は「ツキヒカリ」、「北もみじ86」よりやや高い。

3. 球肥大が良好で総収量は「ツキヒカリ」を上回る。規格内収量は「ツキヒカリ」以上である。
4. 変形・裂皮球がやや多く、球形は「ツキヒカリ」より扁平である。球形の揃いは「ツキヒカリ」、「北もみじ86」よりやや劣る。球の硬さは「ツキヒカリ」、「北もみじ86」より軟らかい。皮色は「ツキヒカリ」、「北もみじ86」より濃い。りん葉は「ツキヒカリ」、「北もみじ86」より厚い。辛味の強さの指標となるピルビン酸生成量(EFPA)は「ツキヒカリ」より15%程度低い。
5. サラダでは「ツキヒカリ」より辛味が少なく、甘味が強く、肉質も優れる。短時間(15分間)加熱したオニオンスープでは、甘味が強く、食味も優れる。
6. 貯蔵中の腐敗は「ツキヒカリ」と同等に少ない。貯蔵中の萌芽が遅く、茎盤突出が少ないので、貯蔵末期(4月)における健全率は「ツキヒカリ」と同等以上に高い。
7. 乾腐病に対する抵抗性は、抵抗性強の「ツキヒカリ」よりやや弱い。収穫期前後の腐敗(乾腐病、ポトリチス)の発生率も「ツキヒカリ」とほぼ同等である。

栽培適地と奨励態度

北海道のたまねぎ栽培地帯における春播き露地移植栽培に適する。変形球及び裂皮球が発生しやすいので、根切り処理による枯葉の促進が必要である。

試験場名	品 種 名	倒伏期 (月日)	規格内1) 収 量 (kg/a)	同左標 準対比 (%)	規格1) 内率 (%)	平 均 一 球 重 (g)	貯蔵前 腐敗率 (%)	球 形 指 数	球の2) 硬 さ	貯蔵後 健全率 (%)	試 験 年 次
北海道農試	トヨヒラ	8.9	717	129	92	243	1.9	78	7.9	80	1993 ~1996
	ツキヒカリ	8.8	555	100	85	203	1.7	93	9.7	68	
	北もみじ86	8.9	700	128	87	250	1.7	90	9.3	82	
中央農試 花・野菜 センター	トヨヒラ	8.16	365	87	68	176	5.3	85	4.0	36	1993 ~1996
	ツキヒカリ	8.16	418	100	84	161	1.9	95	7.0	39	
	北もみじ86	8.16	472	113	85	177	2.8	93	7.0	63	
北見農試	トヨヒラ	8.17	428	89	62	242	8.1	85	4.6	21	1993 ~1996
	ツキヒカリ	8.17	486	100	85	211	9.5	97	6.0	22	
	北もみじ86	8.16	574	122	87	240	9.4	94	6.0	27	

注 1) 規格基準が試験場所異なる(扁平の基準が、北海道農試では球径指数70以下、道立農試では80以下)。

注 2) 北海道農試では硬度計による測定値、道立農試では、触感による9段階評価。

- 参照** 1) 北海道農政部編, 平成9年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-8(1997).
 2) 佐藤 裕等, 北海道農試研報. 168, 47-57(1999).

(2) ウルフ (系統名 T-383) 1998年
登録番号：(北海道) たまねぎ準移交第15号

セールスポイント

中生で球肥大性、収量性を備えた、年内出荷用の多収品種である。

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社において、良質、耐病性で肥大性に優れることを目標として育成された。「札幌黄(橋本系)×Early Yellow Globe(米国種)」の後代から選抜した系統を種子親とし、「札幌黄」の北見在来から選抜した系統を花粉親とする単交配一代雑種である。1995年より「T-383」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子千粒重は「ツキサップ」並で、「北もみじ86」よりやや重い。発芽勢及び発芽率は「ツキサップ」並に高く、「北もみじ86」より優る。苗の葉数は両品種と同等かやや少ないが、草丈は同等か優る。
2. 草姿、葉色及び葉先枯れは中位である。
3. 肥大期は両品種と比較してやや早く、倒伏期は「北もみじ86」と同等からやや早く、「ツキサップ」より早い中生である。
4. 乾腐病に対しては、抵抗性強の「ツキサップ」、「北もみじ86」と比較すると抵抗性はやや弱い。灰色腐敗病などボトリチス属菌による病害に対しては、両品種

より発病率がやや低い。肌腐れ症状などの発生も比較的少ない。

5. 耐抽台性はやや低い。
6. 平均一球重は「ツキサップ」、「北もみじ86」とほぼ同等以上である。規格内率は「ツキサップ」、「北もみじ86」より高いが、変形球の発生が多いことがある。規格内収量は「ツキサップ」、「北もみじ86」より優る。
7. 球の締り、外皮色の濃さ及び皮張りの程度は「北もみじ86」よりやや劣るが、「ツキサップ」よりやや優る。
8. 発根及び茎盤の突出が早いいため、貯蔵後健全率は高貯蔵性の「北もみじ86」、「ツキサップ」より劣る。また萌芽が早い場合がある。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。球肥大性に優れることから、変形球や裂皮球発生を避けるため適期に根切りを実施する。また乾燥しやすい砂れき地や排水不良地を避けるなど圃場の選定に留意し、適切な肥培管理に努める。ボトリチス属菌による病害や肌腐れ症状等の発生は比較的少ないが、倒伏遅延の気象条件下では灰色腐敗病などの発生が増加することがあるので、適切な防除の実施に努める。成型ポット式の育苗方式では栽培管理マニュアルに従い、不良苗の発生を防止する。乾腐病に対する抵抗性はやや弱いので、同病多発圃場での栽培は避ける。

場所名	品種名	倒伏期 (月日)	規格内 収量 (kg/a)	同左標 準対比 (%)	規格 内率 (%)	平均 一球重 (g)	乾腐 病率 (%)	その他 病害率 (%)	貯蔵後 健全率 (%)	試験年次
北海道農試	ウルフ	8.8	668	100	92	215	0.2	0.1	46.5	1995~1997
	ツキサップ	8.12	669	100	89	232	0.5	2.9	89.2	
	北もみじ86	8.10	627	94	81	231	0.6	1.1	97.3	
中央農試 花・野菜 センター	ウルフ	8.13	566	130	91	201	0.4	1.1	11.6	1995~1996
	ツキサップ	8.19	434	100	91	160	0.6	5.2	76.2	
	北もみじ86	8.15	439	101	85	164	0.4	3.3	85.8	
北見農試	ウルフ	8.11	576	122	87	239	1.9	2.9	18.4	1995~1997
	ツキサップ	8.15	473	100	78	223	1.9	4.0	72.2	
	北もみじ86	8.13	578	122	90	230	2.1	5.5	68.4	

注 1) 貯蔵後健全率は1995,1996年産の値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29(1998).

(3) カムイ (系統名 T-400) 1998年
登録番号：(北海道) たまねぎ準移交第16号

セールスポイント

やや晩生で球肥大性、収量性及び乾腐病抵抗性を備え、球の外観品質にも優れる多収品種である。

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社において、良質、大球、高貯蔵性で乾腐病及び白斑葉枯病等の複合抵抗性に優れることを目標として育成された。「札幌黄×Northern系(米国種)」の後代から選抜した系統を種子親とし、「札幌黄」の北見在来から選抜した系統を花粉親とする単交配一代雑種である。1995年より「T-400」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子千粒重は「ツキサップ」並で、「北もみじ86」よりやや重い。発芽勢及び発芽率は「ツキサップ」並に高く、「北もみじ86」より優る。苗の葉数は両品種と同等かやや少ないが、草丈はほぼ同等か優る。
2. 草姿はやや立性で、葉色及び葉先枯れは中位である。
3. 肥大期は両品種と比較して同等かやや早く、倒伏期も「北もみじ86」と同等からやや早く、「ツキサップ」

より早いやや晩生である。

4. 乾腐病に対しては抵抗性強である「ツキサップ」、「北もみじ86」とほぼ同等であるが、発病率のやや高い事例もみられる。灰色腐敗病などボトリチス属菌による病害や肌腐れ症状などは比較的少ない。
5. 抽台率がわずかに高くなることがある。
6. 平均一球重は両品種と同等である。規格内率は両品種より高い。規格内収量は両品種に優る。
7. 球の締り、外皮色の濃さ及び皮張り程度は「北もみじ86」並で、「ツキサップ」より優る。
8. 発根及び茎盤の突出がやや早いため、貯蔵後健全率は高貯蔵性の両品種よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。球肥大性に優れることから、変形球や裂皮球発生を避けるため適期に根切りを実施する。また乾燥しやすい砂れき地や排水不良地を避けるなど圃場の選定に留意し、適切な肥培管理に努める。ボトリチス属菌による病害や肌腐れ症状等の発生は比較的少ないが、倒伏遅延の気象条件下では灰色腐敗病などの発生が増加することがあるので、適切な防除の実施に努める。

場所名	品種名	倒伏期 (月日)	規格内 収量 (kg/a)	同左標 準対比 (%)	規 格 内 率 (%)	平 均 一 球 重 (g)	乾 腐 病 率 (%)	その他 病害率 (%)	貯蔵後 健全率 (%)	試験年次
北海道農試	カムイ	8.12	678	101	89	227	0.4	0.5	77.5	1995~1997
	ツキサップ	8.12	669	100	89	232	0.5	2.9	89.2	
	北もみじ86	8.10	627	94	81	231	0.6	1.1	97.3	
中央農試 花・野菜 センター	カムイ	8.16	499	115	93	173	0.3	1.0	71.3	1995~1996
	ツキサップ	8.19	435	100	91	160	0.6	5.2	76.2	
	北もみじ86	8.15	439	101	85	164	0.4	3.3	85.8	
北見農試	カムイ	8.12	598	126	93	225	1.3	3.2	43.0	1995~1997
	ツキサップ	8.15	473	100	78	223	1.9	4.0	72.2	
	北もみじ86	8.13	578	122	90	230	2.1	5.5	68.4	

注 1) 貯蔵後健全率は1995,1996年産の値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-32(1998).

(4) さらり (系統名 北見交27号) 2000年
登録番号：(北海道) たまねぎ北海道交第8号
(種苗法) 第10978号

セールスポイント

辛みが少なく生サラダ、ソテーの食味評価は一般の春播き品種に比較して高く、貯蔵性もあり、良食味たまね

ぎとして長期安定出荷が可能である。

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場とホクレン農業総合研究所との共同研究により、辛みが少なく良食味で、貯蔵性の高い品種の育成を目標に、ホクレン農総研がアドバンタ社から導入した細胞質雄性不稔系統「AOPFA」を種子親とし、北見農業試験場が「北見黄」

から育成した系統「81S」を花粉親として育成された単交配一代雑種である。1994年に「PRCX02」、1996年からは「北見交27号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 種子千粒重は「ツキサップ」よりやや重く、発芽勢はやや劣るが、発芽率は同等である。苗の葉数、草丈は「ツキサップ」、「トヨヒラ」とほぼ同等であるが葉鞘径は太い。
2. 草丈は「トヨヒラ」と同等で、「ツキサップ」より高い。草姿は両品種より開張する。葉色は「ツキサップ」とほぼ同様で中位である。葉折れはやや多く、葉先枯れは「ツキサップ」並で、やや多い。
3. 倒伏期は「ツキサップ」、「トヨヒラ」と同時期である。
4. 乾腐病に対しては、両品種より抵抗性が低い。灰色腐敗病などボトリチス属菌による病害と肌腐れ症状も多い。虫害はやや多い。

5. 耐抽台性は「ツキサップ」、「トヨヒラ」並である。
6. 平均一球重は「ツキサップ」よりやや優り、「トヨヒラ」並である。規格内率は「ツキサップ」並で、「トヨヒラ」よりやや優る。規格内収量は「ツキサップ」、「トヨヒラ」並からやや多い。
7. りん葉は厚く、球の硬さは「ツキサップ」、「トヨヒラ」並か、やや軟らかい。辛さの指標となるピルビン酸生成量は少なく、貯蔵中の増加も少ない。外皮色の濃さは「トヨヒラ」並である。
8. 貯蔵後健全率は「ツキサップ」、「トヨヒラ」より劣る。貯蔵後の皮むけ程度は「トヨヒラ」に優る。

栽培適地と奨励態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。乾腐病多発圃場の栽培は避ける。ボトリチス属菌による病害、肌腐れ症状等による腐敗球についても、年次、場所により多発することがあるので、適切な防除の実施に留意する。地温30℃を超えると発芽率が劣るので、播種後の温度管理に留意する。

場所名	品 種 名	倒伏期 (月日)	規格内 収 量 (kg/a)	同左標 準対比 (%)	規格内率 内 率 (%)	平 均 一 球 重 (g)	乾 腐 病 率 (%)	その他 病害率 (%)	ピルビン酸 生 成 量 (μ mol/g)	貯蔵後 健全率 (%)	試験年次
北見農試	さ ら り	8.13	562	108	90	219	1.8	3.6	(6.30)	44.2	1996~1999
	ツキサップ	8.14	521	100	85	210	0.8	2.5	(9.22)	50.6	
	トヨヒラ	8.12	482	93	74	224	1.1	2.5	(7.54)	38.0	
北海道農試	さ ら り	8. 9	409	83	79	173	1.1	11.7		(44.6)	1997~1999
	ツキサップ	8.15	495	100	81	195	0.1	7.8		77.7	
	トヨヒラ	8.12	469	95	81	188	0.4	6.2		56.8	
花・野菜センター	さ ら り	8. 8	451	116	91	175	3.1	8.4		72.0	1996,1998, 1999
	ツキサップ	8.10	389	100	92	159	2.2	6.5		69.7	
	トヨヒラ	8. 8	409	105	81	167	1.5	3.3		74.6	

注 1) 貯蔵後健全率は北見農試は1996~1998年産、北海道農試は1997~1998年産（さらりは1998年のみ）、花・野菜技術センターは1996,1998年産の値である。
2) ピルビン酸生成量は、1999年産収穫時の値である。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，37-39(2000)。

(5) 北こがね2号 (T-418) 2001年

登録番号：(北海道)たまねぎ準移交第17号

セールスポイント

中生の早で球肥大性が良く、規格内率の高い多収品種であり、皮色・皮張りにも優れている。また、既存中生の早の品種より貯蔵性が高い。

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社が、「札幌黄」×「早生 Early Yellow Globe 群」の後代から選抜した

系統を種子親とし、「札幌黄」の北見在来から選抜した系統を花粉親とする単交配一代雑種である。1998年より「T-418」の系統名で各種試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽勢は「ツキサップ」、「ウルフ」より高く、発芽率は同等である。苗の草丈は「ウルフ」と同等である。葉数及び葉鞘径は「ウルフ」並である。
2. 初期生育とその後の草勢は「ウルフ」並に旺盛であ

る。葉色は「ウルフ」より濃く、草姿は「ウルフ」よりわずかに開張する。均一性は「ウルフ」とほぼ同等で、葉先枯れは少ない。生育盛期の草丈は、「ウルフ」並で、葉数、葉鞘径は「ウルフ」と同等である。

3. 倒伏期は「ウルフ」と同等で、「ツキサップ」よりやや早く、中生の早に属する。枯葉期は両品種よりやや早い。
4. 乾腐病の発生程度は「ツキサップ」より高く、「ウルフ」よりやや高い。灰色腐敗病などボトリチス属菌による病害は、「ツキサップ」より発生率がやや低い。
5. 不時抽台は「ツキサップ」並である。
6. 平均一球重は「ウルフ」に並で、「ツキサップ」より優る。規格内率は「ウルフ」と同等である。規格内

収量は「ウルフ」よりやや劣るが、「ツキサップ」と同等以上である。また、L大球（球径が8 cm）以上の比率は「ウルフ」より高い。

7. 貯蔵後健全率は高貯蔵性の「ツキサップ」より劣るが、「ウルフ」より優る。
8. 球は「ツキサップ」より軟らかいが、「ウルフ」よりやや硬い。外皮色は「ウルフ」より濃い。皮張り程度は「ウルフ」並である。

栽培適地と栽培態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。乾腐病の発生程度はやや低い程度であるので、同病多発圃場での作付けは避ける。

場所名	品 種 名	倒伏期 (月日)	規格内 収 量 (kg/a)	同左比 (%)	規 格 内 率 (%)	平 均 一 球 重 (g)	乾 腐 病 率 (%)	その 他 病 害 率 (%)	貯蔵後 健全率 (%)	試験年次
北海道農試	北こがね2号	8.6	491	107	85	193	0.5	8.1	12.5	1998～2000
	ツキサップ	8.9	458	100	84	185	0.0	11.5	50.5	
	ウルフ	8.4	534	117	89	195	0.2	5.1	3.5	
花・野菜 センター	北こがね2号	8.1	548	129	97	189	1.9	2.5	61.5	1998～2000
	ツキサップ	8.3	426	100	94	165	2.2	3.5	83.2	
	ウルフ	7.31	572	134	95	200	2.7	1.8	19.3	
北見農試	北こがね2号	7.29	488	108	92	175	1.2	2.0	21.6	1999～2000
	ツキサップ	8.5	452	100	85	172	0.6	1.4	84.1	
	ウルフ	7.30	512	113	91	185	0.6	2.3	10.8	

注 1) 北農試、花野セの貯蔵後健全率は1998・1999年産の平均、他は1999年産。

参照 1) 北海道農政部編、平成13年普及奨励ならびに指導参考事項、30-31(2001)。

- (6) **イヨマンテ**（系統名 T-422）2001年
登録番号：(北海道)たまねぎ準移交第18号

セールスポイント

中生で、球肥大性が良く、規格内率の高い多収品種である。また、既存の中生品種と比較してもL大規格以上の収量性が優れる。

来歴 本品種は、タキイ種苗株式会社が、「Northern系（米国種）」×「Early Yellow Globe 群」の後代から選抜した系統を種子親とし、「札幌黄」の北見在来から選抜した系統を花粉親として育成した単交配一代雑種である。1998年より「T-422」の系統名で各種試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 発芽勢は「カムイ」より高く、「ツキサップ」と同

等で、発芽率は両品種並に高い。苗の草丈は「カムイ」より低く、葉数及び葉鞘径は両品種並である。

2. 初期生育とその後の草勢は両品種より優り、葉色は同等である。草姿は「カムイ」より開張する。葉先枯れは「カムイ」並で、「ツキサップ」より少ない。生育盛期の草丈、葉数及び葉鞘径は、「カムイ」並である。
3. 倒伏期は「カムイ」より1日、「ツキサップ」より2日早い中生に属する。枯葉期は両品種よりやや早い。
4. 乾腐病の発生程度は、「ツキサップ」より高く、「カムイ」よりやや高い。灰色腐敗病などボトリチス属菌による病害は、「ツキサップ」より発生率がやや低い。
5. 平均一球重及び規格内率は「カムイ」並で、「ツキサップ」より優る。規格内収量は「カムイ」並である。また、L大球（球径が8 cm）以上の比率は「カムイ」より優る。
6. 貯蔵後健全率は高貯蔵性の「ツキサップ」より劣る

が、「カムイ」よりやや優る。

7. 球の硬さは「カムイ」並で、外皮色は「ツキサップ」より濃いが、「カムイ」よりやや劣る。球の揃いは「カムイ」並で、皮張り程度はやや劣る。

栽培適地と栽培態度

全道のたまねぎ栽培地帯に適する。乾腐病の発生程度はやや低い程度であるので、同病多発圃場での作付けは避ける。

場所名	品 種 名	倒伏期 (月日)	規格内 収 量 (kg/a)	同左比 (%)	規 格 内 率 (%)	平 均 一 球 重 (g)	乾腐 病 率 (%)	その他 病 害 率 (%)	貯蔵後 健 全 率 (%)	試験年次
北海道農試	イオマンテ	8. 5	531	116	88	194	0.5	7.0	20.4	1998～2000
	ツキサップ	8. 9	458	100	84	185	0.0	11.5	50.5	
	カ ム イ	8. 7	520	114	87	193	0.1	6.5	24.3	
花・野菜 センター	イオマンテ	8. 1	498	117	95	181	4.4	1.7	59.0	1998～2000
	ツキサップ	8. 3	426	100	94	165	2.2	3.5	83.2	
	カ ム イ	8. 3	545	128	97	187	2.2	1.8	51.9	
北見農試	イオマンテ	7.31	462	102	89	176	1.5	1.8	43.1	1999～2000
	ツキサップ	8. 5	452	100	85	172	0.6	1.4	84.1	
	カ ム イ	7.31	475	105	94	164	0.6	1.3	35.2	

注 1) 北農試、花野セの貯蔵後健全率は1998・1999年産の平均、北見農試は1999年産。

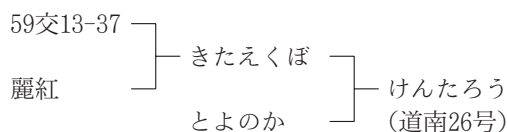
参照 1) 北海道農政部編，平成13年普及奨励ならびに指導参考事項，32-33(2001)。

2. いちご

(1) けんたろう (系統名 道南26号) 2000年
登録番号：(北海道) いちご北海道第3号
(種苗法) 第12061号

セールスポイント

果実品質(外観，食味，日持ち性)に優れ，萎凋病や萎黄病などの土壤病害に強い，無加温半促成栽培向け品種である。



特性概要

1. 草姿は中間型で，草勢は「きたえくぼ」より弱い「宝交早生」より強い。収穫始は「宝交早生」と同じか2日程度遅いが，「きたえくぼ」より4日程度早い。
2. 果房当たりの果数は「きたえくぼ」や「宝交早生」より少ない。上物率は「宝交早生」「きたえくぼ」より高く，上物収量は「宝交早生」並に多い。
3. 果実は円錐形で果実硬度は「きたえくぼ」より硬く，輸送性が優れる。果皮色は鮮赤色，果肉色は淡橙色であり，光沢が優れ，色むらが少ない。先白果の発生は認められない。糖度は「きたえくぼ」並であるが，酸度が低いため糖酸比は高い。食味は「宝交早生」や

来歴 本品種は，1993年に北海道立道南農業試験場において，早生で果実品質が「きたえくぼ」並で障害果の発生が少ない品種の育成を目標に，「きたえくぼ」を母，「とよのか」を父として交配し，育成されたもので，1997年より「道南26号」の系統名で各種試験を行い，2000年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

「きたえくぼ」より優る。

4. うどんこ病には「宝交早生」より強く，灰色かび病には「宝交早生」と同等であるが「きたえくぼ」より強い。また，萎凋病には「宝交早生」よりやや強く，萎黄病には「宝交早生」より明らかに強い。

栽培適地と奨励態度

全道一円の無加温半促成栽培に適する。果房当たり果数が少ないため，果房数が少ないと減収する場合がある。そのため，適期定植に努めて秋の生育量を確保する必要がある。

試験場名	品 種 名	開花始 (月日)	収穫始 (月日)	上物収量 (kg/a)	上物率 (%)	上 物 1 果重 (g)	果 実 硬 度	糖 度 (Brix)	外 観 品 質	果 実 総 評 価	実 合 価	試験年次
道南農試	けんたろう	4.10	5.10	211	57	11.9	4.0	10.6	4.4	3.9	1996～1999	
	きたえくぼ	4.13	5.14	201	38	10.9	3.6	10.7	4.2	3.5		
	宝交早生	4.8	5.10	132	32	10.7	2.0	10.5	2.8	3.1		
花・野菜 センター	けんたろう	4.14	5.21	195	—	15.0	—	10.2	4.0	4.3	1997～1999	
	きたえくぼ	4.17	5.25	207	—	14.8	—	10.4	4.3	4.3		
	宝交早生	4.11	5.19	149	—	13.0	—	9.6	3.0	3.0		

注 1) 上物率は全収穫量に対する上物果数の割合。

2) (果実硬度, 外観品質, 果実総合評価):(硬～軟, 良～不良):(5～1)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42 (2000)。

2) 今野 寛等, 北海道立農試集報. 81, 1-10(2001)。

(2) エッチェス-138 (系統名 HS-138号) 2001年

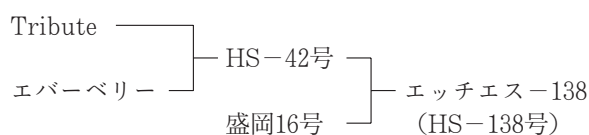
登録番号:(北海道)いちご北海道第4号

(種苗法)第12057号

セールスポイント

多収でかつ業務用適性(外観, 日持ち, 輸送性)に優れる四季成り性品種である。

来歴 本品種は, 夏秋どり作型における多収性と日持ち性・高輸送性を目標に, 1995年に北海三共株式会社が同社育成系統の「HS-42号」を母, 「盛岡16号」を父として交配した後代から選抜・育成された。1999年より「HS-138号」の系統名で各種試験を行い, 2001年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 草姿は開張性で, 草勢は「エバーベリー」よりもやや強い。分けつ性が高く, 芽数が多い。
2. 果房数が多く, また果房に着生する果数が多い。そのため, 収穫果数も多く収量性は高いが, 屑果は多く上物率がやや低い。
3. ランナー発生数は「エバーベリー」並であるが, ランナー増殖中にも株およびランナー苗で開花・結実するため, 子苗の生産性は一季成り性品種の「宝交早生」と比べて劣る。
4. 耐病性は灰色かび病, うどんこ病の罹病程度は「エ

バーベリー」並である。萎凋病抵抗性は「エバーベリー」よりやや強く, 「宝交早生」より強い。萎黄病抵抗性は「エバーベリー」より弱く, 「宝交早生」と同等である。

5. 果形は円錐形, 果皮色は鮮赤色で, 光沢は優れる。果肉色は淡橙色で, 中心空洞はほとんどない。日持ち性は「エバーベリー」よりも明らかに優る。また, 外観に優れ, 果実が硬いことから「エバーベリー」と比べて業務用適性が優れる。糖度(Brix値)は「エバーベリー」並である。酸味がやや強いいため, 食味評価は「エバーベリー」よりやや劣る。

試験場名	品 種 名	上物収量 (kg/a)	上物率 (%)	果実 硬度	糖度 (%)	酸味	外観	日持ち 性	試験年次
道南農試	エッチェス-138	99	30.5	5.0	8.5	2.0	4.0	5.0	1999～2000
	エバーベリー	82	38.0	3.0	8.7	3.0	3.0	2.5	

注 1) 上物率は全収穫量に対する上物果数の割合。

2) 酸味は酸度計による測定値と官能試験結果から評価した(酸味:(弱～強):(5～1))。

3) 果実硬度:(硬～軟):(5～1)。外観, 日持ち:(良～不良):(5～1)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29 (2001)。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。土耕および高設栽培のいずれにも利用できる。栽培上の注意点は、上物率を高めるため、弱い芽・弱い花房及び果房を摘除する。夏期には着果過多による成り疲れが生ずることがあるが、その場合は花

房及び果房を摘除して株を休ませて、再び出てきた果房で収穫を再開する。本作型では長期にわたって栄養生長と生殖生長を続けることに加え、本品種が多収性であることを考慮し、着果期以降には液肥等による追肥を行う。

3. メロン

<実とり用>

- (1) めろりん (系統名 空知交5号) 1998年
登録番号：(北海道)メロン北海道第1号
(種苗法)第9656号

セールスポイント

良食味で着果性・肥大性が優れ、外観品質も良好な緑肉品種である。つる割病菌レース0、レース2やうどんこ病に対して抵抗性を示し栽培しやすい。

来歴 本品種は、良食味緑肉品種「キングメルター」の着果性、肥大性、果実外部品質および耐病性の改良を目標に、北海道立花・野菜技術センター育成の「G50」を種子親、「G51」を花粉親として育成された単交配一代雑種である。1995年に「95X-13」、1996年より「空知交5号」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 苗の生育は「キングメルター」より旺盛である。草勢は「キングメルター」よりやや強い。側枝(むだづる)の発生は「キングメルター」より少なく、葉色は「キングメルター」よりやや濃い。
2. 着果性は「キングメルター」より優れる。果実成熟日数は「キングメルター」より2～3日長い。「キン

グメルター」と同様に成熟に伴う果皮の黄化と離層の形成が見られ、収穫時期の判定難易は「キングメルター」と同等のやや難である。

3. 果実肥大性は「キングメルター」より非常に優れ、果形およびネット形質も「キングメルター」より優れる。果皮色は灰緑色で、成熟に伴って黄化する。果肉が厚く、果肉色は淡緑色で「キングメルター」よりやや淡い。糖度が「キングメルター」よりやや低いが食味・肉質ともに「キングメルター」と同等に良好である。日持ち性は「キングメルター」と同等からやや優れる。
4. 収量性は収穫果率・良果率が高く、1果重も大きいため「キングメルター」より多収である。
5. うどんこ病、つる割病菌レース0、レース2に抵抗性を有する。

栽培適地と奨励態度

全道のメロン栽培地域に適し、適応作型は無加温半促成栽培、ハウス早熟栽培である。過肥大とヒルネットの発生を抑えるため、灌水は「キングメルター」より控える。また、着果節位は6-10節と低めにする。「キングメルター」で行われているネット形成を促すための「蒸しこみ」は必要としない。「キングメルター」と同様に日持ち日数の短い品種であるため、流通期間が短い産地直送や地場消費などに適する。

場所名	作型	品種名	成熟日数(日)	規格内収量(kg/a)	同左標準対比(%)	規格内率(%)	平均一果重(g)	ネット密度	糖度(Brix)	日持ち性	試験年次
中央農試, 花・野菜センター	ハウス・半促成・早熟	めろりん	52.3	300	261	76	2269	4.9	13.0	1.8	1995~1997
		キングメルター	49.3	115	100	50	1395	3.1	13.8	1.8	
上川農試	トンネル・ハウス早熟	めろりん	45.2	264	175	66	2000	3.5	12.8	3.3	1996~1997
		キングメルター	45.0	151	100	60	1316	2.3	15.4	1.5	
原子力環境センター	トンネル早熟	めろりん	47	147	89	65	1401	3.5	12.6	2.0	1996~1997
		キングメルター	44	165	100	97	1260	3.0	15.1	2.5	

注 1) ネット密度は1(粗) - 5(密), 日持ち性は1(不良) - 5(良)で評価。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 24-26(1998).
2) 中住晴彦等, 北海道立農試集報. 82, 49-56(2002).

(2) いちひめ (系統名 空知交11号) 2002年
登録番号：(北海道) メロン北海道第2号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

さわやかな香りを持ち、高温期においても糖度が高く、果実肥大性・日持ち性が優れ、うどんこ病に強い栽培しやすい赤肉品種である。

来歴 本品種は、主力品種「ルピアレッド」と同等の優れた栽培特性を有し、高温期でも安定した収量、品質が得られるさわやかな食味の赤肉品種育成を目標に、北海道立花・野菜技術センターと株式会社大学農園の共同研究により、「HM-G52」を種子親とし、「DHM-R1」を花粉親として育成された単交配一代雑種である。1999年に「99RX-8」、2000年より「空知交11号」の系統名で各種試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 「ルピアレッド」に比べ節間が長く、葉がやや大きく、草勢はやや強いが、収穫期のむだ蔓の発生はやや少ない。
2. 両性花の着生および着果は「ルピアレッド」と同等からやや優れる。平均収穫日は「ルピアレッド」よりもやや遅い。
3. 「ルピアレッド」と同様に成熟に伴う果皮色の変化がなく、離層の形成が「ルピアレッド」よりも少ないため、収穫適期判定は「ルピアレッド」と比べ同等からやや難である。
4. 果実の肥大性は「ルピアレッド」よりやや優れる。

果径比は「ルピアレッド」とほぼ同等で、正球に近い。「ルピアレッド」に見られる果溝はほとんど見られず、果形の揃いは良好である。果皮色は灰緑～緑である。ネットの密度は「ルピアレッド」よりやや低く、太さはやや細い。結果枝は「ルピアレッド」に比べやや細い。

5. 果肉は「ルピアレッド」に比べ厚く、胎座部の空洞が小さい。果肉色は「ルピアレッド」より淡い橙色である。糖度 (Brix) は無加温半促成栽培では「ルピアレッド」よりやや高く、特に高温期に収穫となる遅い作期では、「ルピアレッド」に比べ糖度が高い。食味は赤肉特有のいわゆる「赤肉臭」が極めて少なく、さわやかである。「ルピアレッド」に比べ収穫後適食期に達するまでにやや日数を要する。このため、「ルピアレッド」より日持ち性が優れる。
6. 収量性は「ルピアレッド」と比べ収穫果数はほぼ同等であるが、果実肥大がやや優れ、良果率がやや高いことから多収である。
7. つる割病菌レース0、レース2に対して抵抗性を有するが、つる割病菌レース1,2yおよびえそ斑点病に対しては抵抗性を持たない。うどんこ病には強い抵抗性を有する。

栽培適地と奨励態度

全道のメロン栽培地域に適する。つる割病菌レース1,2yおよびえそ斑点病抵抗性を有しないため、これらの土壌病害が発生している圃場での栽培には抵抗性台木を利用するなどの対策を講じる必要がある。収穫後適食期に達するまでにやや時間を要するので、出荷・流通に当たっては留意する。

場所名	作型	品種名	成熟日数 (日)	規格内収量 (kg/a)	同左標準対比 (%)	規格内率 (%)	平均一果重 (g)	ネット密度	糖度 (Brix)	赤肉臭	試験年次
花・野菜センター	無加温半促成	いちひめ	53.0	361	174	91	2,137	4.0	13.0	1.1	2000～2001
		ルピアレッド	52.4	208	100	57	2,013	4.4	12.0	2.6	
原子力環境センター	ハウス抑制	いちひめ	48	225	257	53	2,045	2	12.1	—	2000～2001
		ルピアレッド	44	88	100	25	1,912	3	11.0	—	

注 1) ネット密度は、1 (粗) - 5 (密)、赤肉臭は、1 (弱) - 5 (強) で評価。

参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 13-14(2002).
2) 平井 剛 等, 北海道立農試集報. 84, 37-46(2003).

<台木>

- (1) どうだい1号 (系統名 空知台1号) 1999年
登録番号：(北海道) 台木類北海道第1号
(種苗法) 第10755号

セールスポイント

日本初のつる割病菌レース1,2y抵抗性台木品種である。

来歴 本品種は、1995年に北海道立中央農業試験場において、メロンつる割病菌レース1,2yに抵抗性を有する台木品種の育成を目標として、農林水産省野菜・茶業試験場育成の「メロン中間母本農1号」とシロウリ「東京早生(丸葉)」を交雑し、その後代から選抜・育成された。1997年から「空知台1号」の系統名で各種試験を行い、1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 胚軸径がやや細いため接ぎ木作業性がやや劣るが、接ぎ木接合面の癒合は正常であり接ぎ木親和性に問題はない。
2. つる割病菌レース1,2y未発生圃場における穂木の両性花着生率・着果率や着果期までの草勢は一般台木品種や自根栽培とほぼ同等であるが、着果期以降の草勢がやや劣る場合がある。

3. 果実外部・内部品質は一般台木品種や自根栽培に比べ未発生圃場ではほぼ同等であるが、発生圃場においてはやや優れる。
4. 収量性は一般台木品種や自根栽培に比べ未発生圃場ではやや劣るが、発生圃場ではやや優れる。
5. つる割病菌レース1,2yに対しては実用上問題ない程度の強い抵抗性を有する。また、レース0に対しては質的抵抗性を有するが、レース2に対する抵抗性はない。

栽培適地と奨励態度

全道のメロン栽培地域のうち、つる割病菌レース1,2yの発生が確認された地域に適する。汚染度が高い圃場では、菌密度を低下させる措置(土壌消毒等)と併せて用いる。低温期において穂木の生育がやや劣る場合があることから、適応作期は4月下旬以降定植の作期とする。つる割病菌レース2に対する抵抗性を有しないため、レース2が発生している地域での栽培は避ける。十分な胚軸径を確保するために、播種日は穂木の播種日より7~10日前とする。草勢の強い品種を穂木に用いる場合は、定植後、特に着果期以降の草勢を落とさないように注意する。

場所名	品 種 名		定 植 時 穂木茎長 (cm)	成 熟 日 数 (日)	平 均 一果重 (g)	外 観 品 質	メロンつる割病菌レース1,2y		試験年次
	台木	穂 木					発病度	発病個体率 (%)	
花・野菜 センター	どうだい1号 (自根)	赤肉キング系	3.8	54.5	2471	2.9	5.7	18.2	1998
			4.4	53.2	2693	2.9	84.8	100	
	どうだい1号 (自根)	ルピアレッド	3.0	59.2	1811	2.8			
			3.0	61.0	1938	3.1	99.0	100	

注 1) 外観品質は、1(不良) - 5(良)。

2) メロンつる割病菌レース1,2yに対する発病度、発病個体率は幼苗検定結果。

参照 1) 北海道農政部編, 平成11年普及奨励ならびに指導参考事項, 20-22 (1999年)。

- (2) どうだい2号 (系統名 空知台2号) 2001年
登録番号：(北海道) 台木類北海道交第2号
(種苗法) 第12287号

セールスポイント

つる割病菌レース1,2yにやや強で、全てのレースに抵抗性を持ち、接ぎ木作業性が良く、台木特性が優れた栽培しやすい台木品種である。

来歴 本品種は、北海道立花・野菜技術センターにおいて、メロンつる割病菌レース1,2y抵抗性台木品種「どうだい1号」の台木特性の改良を目標として、台木品種「バーネット・ヒル・フェボリット」を種子親とし、「どうだい1号」を花粉親として育成された単交一代雑種である。1999年から「空知台2号」の系統名で各種試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 胚軸径は「金剛1号」「どうだい1号」に比べて太く、接ぎ木作業性は優る。接ぎ木接合面は正常であり、接ぎ木親和性に問題はない。
2. 穂木の両性花着生率および着果率については、「金剛1号」「どうだい1号」や自根栽培とほぼ同等である。着果期以降の草勢についても、「どうだい1号」に比べ強く、「金剛1号」や自根栽培とほぼ同等である。
3. 果実外部・内部品質は、「金剛1号」「どうだい1号」および自根栽培に比べ、つる割病菌レース1,2y未発生圃場では同等からやや優り、発生圃場ではやや優る。
4. 収量性は未発生圃場、発生圃場いずれにおいても、「金剛1号」「どうだい1号」および自根栽培と同等から優る。

5. つる割病菌レース1,2yに対しては、やや強い抵抗性を有する。また、つる割病菌レース0およびレース2に対しては質的抵抗性を有する。

栽培適地と奨励態度

全道のメロン栽培地域で、つる割病菌レース1,2yの発生が確認された圃場および発生の恐れがある圃場に適する。本品種をつる割病菌レース1,2y抵抗性は「どうだい1号」よりやや劣り、激発圃場では発病を抑制できない場合があるので、導入にあたっては「メロンつる割病菌レース1,2y抵抗性台木品種「どうだい2号」導入指針」(2003年普及推進事項)に従い発病の安定した抑制に努める。過度の「蒸し込み」は生育異常を引き起こす場合があるため避ける。

場所名	品 種 名		定植時胚軸径		成 熟 日 数 (日)	平 均 一果重 (g)	ネッ ト 密 度	メロンつる割病菌レース1,2y		試 験 年 次
	台 木	穂 木	台 木 (mm)	穂 木 (mm)				発 病 度	発病個体 率 (%)	
花・野菜 センター	どうだい2号	赤肉キング系	(4.4)	(4.7)	45.9	2,093	2.9	57.1	95.4	1999~2000
	金剛1号		(3.9)	(5.5)	45.2	2,157	2.8	100	100	
	どうだい1号		(3.9)	(5.0)	45.7	2,021	2.9	6.7	23.5	
	(自根)		—	(4.9)	45.1	2,046	3.0			
	どうだい2号	ルピアレッド	(4.1)	(4.0)	53.6	2,072	3.9			
	金剛1号		(3.6)	(4.7)	53.6	2,055	3.7			
	どうだい1号		(3.6)	(4.3)	54.3	1,904	3.6			
	(自根)		—	(4.2)	53.2	2,102	3.9			

- 注 1) 定植時胚軸径は1998年のみ調査。
 2) ネット密度は、1(粗) - 5(密)。
 3) メロンつる割病菌レース1,2yに対する発病度、発病個体率は幼苗検定結果。

参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-26 (2001).

- (3) どうだい3号(系統名 空知台交3号) 2002年
 登録番号:(北海道)台木類(メロン)北海道交
 第3号
 (種苗法)第 号

3」を花粉親として育成された単交配一代雑種である。2000年より「空知台交3号」の系統名で各種試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

セールスポイント

日本初のえそ斑点病に完全な抵抗性を持つ台木品種である。また、つる割病菌レース0, レース2に対して完全な抵抗性を有し、台木特性が優れる栽培しやすい台木品種である。

来歴 本品種は、メロンえそ斑点病抵抗性を有し、台木特性に優れた品種の育成を目標に、北海道立花・野菜技術センターにおいて、「パーリタ」を種子親とし、「HM-

1. 「金剛1号」「どうだい2号」に比べ、胚軸長がやや短い、胚軸の太さがやや太いため、接ぎ木作業性は同等である。いずれの穂木品種に対しても接ぎ木接合面は正常であり、接ぎ木親和性に問題はない。
2. 穂木の両性花着生率および着果率は、「金剛1号」「どうだい2号」および自根栽培と同等からやや優る。着果期以降の草勢は、「金剛1号」「どうだい2号」および自根栽培と同等からやや優る。
3. 果実の外観、内部品質はともに、えそ斑点病発生圃

場、未発生圃場いずれにおいても、未発生圃場における自根栽培と遜色ない。

4. 良果収量は、未発生圃場においても「金剛1号」「どうだい2号」および自根栽培と比較して同等からやや優る。
5. えそ斑点病に対して完全な抵抗性を有するが、本抵抗性は穂木に誘導されない。つる割病菌レース0、レース2に対して完全な抵抗性を有するが、つる割病菌レース1,2yに対しては抵抗性を有しない。

栽培適地と奨励態度

全道のメロン栽培地域で、えそ斑点病の発生が確認された圃場および発生の恐れがある圃場に適する。接ぎ木により全身の抵抗性は誘導されないため、管理作業を行う際には自根栽培などによる発病株からの接触伝染を生じないように注意する。つる割病菌レース1,2yの発生が認められた圃場および発生の恐れがある圃場での栽培は抵抗性を有しないため避ける。

場所名	品 種 名		収 穫 期 草 勢	成 日 熟 数 (日)	平 均 一 果 重 (g)	ネ ッ ト 密 度	糖 度 (Brix)	試 験 年 次
	台 木	穂 木						
花 ・ 野 菜 セ ン タ ー	どうだい3号	赤肉キング系	3.5	49.4	2,303	3.4	12.5	2000～2001
	金剛1号 (自根)		3.0	49.5	2,212	3.2	12.4	
			3.3	50.0	2,254	3.9	12.2	
	どうだい3号	ルピアレッド	3.3	53.0	1,982	4.2	11.9	
	金剛1号 (自根)		3.0	52.8	1,943	4.3	12.1	
			3.0	52.4	2,013	4.4	12.0	

注 1) ネット密度は、1 (粗) - 5 (密)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 15-17 (2002).